

2019年度前期 開講講座

5月11日(土) 13時～16時30分
3・1独立運動100年と朝鮮半島のいま

―連続講座「朝鮮半島からみた日本の歴史」開催にあたって
講師＝康成銀

1、朝鮮半島からみた日本の歴史

朝鮮半島と日本は、古代より深いつながりを持っていた。にもかかわらず、明治維新を境に、アジアの盟主を夢見て帝国主義の道を歩んだ日本は、隣国の朝鮮をあたかも目下の民族であるかのように見下し、戦争に次ぐ戦争と、35年間に及ぶ植民地支配の末、1945年に無条件降伏をさせられた。しかしその根は完全に掘り起されはしなかった。隣りあう朝鮮半島と日本の歴史を、1年間のシリーズを通じて学んでいく。

- 講師＝康成銀 (朝鮮大学校朝鮮問題研究センター長)
① 5月11日(土) 3・1独立運動100年と朝鮮半島のいま
② 6月12日(水) 朝鮮と日本の住民の成り立ち、倭の王権と朝鮮
③ 7月10日(水) 「日本」の成立と新羅・渤海、モンゴルの来襲と東アジア
④ 8月21日(水) 室町時代・織豊政権期・江戸時代の日本と朝鮮
⑤ 9月18日(水) 近代日本の朝鮮侵略―明治維新・日清戦争

《後期(2019年11月～2020年3月)の講座テーマ》
⑥ 日露戦争(第二次朝鮮・東北アジア戦争)と韓国強制「併合」
⑦ 日本の朝鮮植民地支配と民族解放闘争
⑧ 解放と分断―日本の「戦後民主主義」と朝鮮戦争
⑨ 21世紀の朝鮮と日本―脱植民地主義・脱冷戦

2、掘りくずされる憲法秩序と象徴天皇制

内政・外交ともに難問山積、差別と抑圧・生きづらさが充満する社会の閉塞状況を覆い隠すように、排外思想の根源である天皇制への国民的関心を掻き立てる「代替わり」儀礼の空騒ぎがマスメディアを総動員して進行中である。

- ① 5月18日(土) 日本国憲法と天皇制
② 8月24日(土) 参戦国家化の中の天皇代替わり報道を問う

3、階級消滅論・階級協調幻想を打ち砕こう!

「経営者目線で考えろ」「労働者が生産性向上に協力するのは当然だ」との風潮がまかり通っている。しかし本質は違う。支配階級は、起ち上がる労働者には徹底的な弾圧と排除、組合つぶしで臨み、その影響力を根こそぎにしようとする。

- ① 6月1日(土) 労働組合で取り組む日朝連帯活動
② 6月26日(水) 関西生コン支部への弾圧を許すな!
③ 7月3日(水) 労働者としていかに生き活動するのか?
④ 9月11日(水) 労働者階級は厳然と存在する

夏季セミナー いま、鋭く問われる日本人の歴史認識 7月28日(日)～30日(火)
① 7月28日(日) 解放直後の在日朝鮮人運動が問いかけたもの
② 7月29日(月) 労働現場でどう闘うか
③ 7月29日(月) 労働現場でどう闘うか
④ 7月29日(月) (戦争民主主義)と継続する植民地主義

4、大西巨人『神聖喜劇』を読む

―光文社文庫版(全五巻)をテキストに
アドバイザー＝立野正裕
山口直孝
アジア太平洋戦争中の対馬兵營を舞台に、青年知識人東堂太郎が不条理に抵抗しながら回生していくさまを描いた本作は、20世紀文学の傑作と評価されている。

5、インターナショナルな思想を学ぼう! 諸国人民の経験から学ぼう!

支配階級は階級意識を隠すことなくマスメディアを駆使し労働者人民に攻撃を加えている。一方、闘う主体の側はマスメディアなどで浸透し創り上げられた大衆意識に迎合し自らの主張を明示出来ないでいる。

- ① 7月13日(土) 新たな歩みを進める社会主義キューバ
② 9月28日(土) ニカラグアを知ろう

6、世界の短編小説を読む

今期はシチリア文学の特集である。古来複雑な曲折をたどり、つねに歴史の重要な舞台に登場させられてきたシチリア。地中海特有の風土と歴史があいまって、たくいまれな文学の沃土が形成され、幾多の才能を輩出させてきた。

- ① 5月22日(水) ジュゼッペ・トマージ・ディ・ランペドゥーザ作「幼年時代の場所」
② 6月5日(水) ジョヴァンニ・ヴェルガ作「金の鍵」「ルーバ」
③ 8月28日(水) フェデリコ・デ・ロベルト作「ロザリオ」
④ 9月25日(水) ルイーザ・ピランデッロ作「真実」「免許証」

〈附記〉ランペドゥーザの代表作『山猫』、ヴェルガの代表作『マリヴォルガ家の人々』、ピランデッロの『カオス・シチリア物語』などは映画化されている。

7、映像を通して考える現代社会

- ① 6月15日(土) 『泥ウソとテント村―東大・山形大農学対抗闘争記』
② 8月31日(土) 『チリの闘い』第一部:ブルジョワジーの叛乱
③ 9月7日(土) 『未知への飛行 フェイル・セイフ』

8、この人にきく

- ① 7月6日(土) 福島原発事件から8年の現実
② 7月17日(水) 湯地朝雄の文芸批評
③ 7月20日(土) 現代世界の対立構図
④ 9月14日(土) 沖縄戦の記憶と辺野古反基地闘争

HOWS講座カレンダー 2019年度前期 (5月～9月)
① 5月11日(土) 開講講座 3・1独立運動100年と朝鮮半島のいま
② 5月18日(土) 日本国憲法と天皇制
③ 5月22日(水) ジュゼッペ・トマージ・ディ・ランペドゥーザ作「幼年時代の場所」
④ 5月29日(水) 第五部 雑草の章
⑤ 6月1日(土) 労働組合で取り組む日朝連帯活動
⑥ 6月5日(水) ジョヴァンニ・ヴェルガ作「金の鍵」「ルーバ」
⑦ 6月12日(水) 朝鮮と日本の住民の成り立ち、倭の王権と朝鮮
⑧ 6月15日(土) 『泥ウソとテント村―東大・山形大農学対抗闘争記』
⑨ 6月26日(水) 関西生コン支部への弾圧を許すな!
⑩ 6月29日(土) 第六部 迷宮の章
⑪ 7月3日(水) 労働者としていかに生き活動するのか?
⑫ 7月6日(土) 福島原発事件から8年の現実
⑬ 7月10日(水) 「日本」の成立と新羅・渤海、モンゴルの来襲と東アジア
⑭ 7月13日(土) 新たな歩みを進める社会主義キューバ
⑮ 7月17日(水) 湯地朝雄の文芸批評
⑯ 7月20日(土) 現代世界の対立構図
⑰ 7月28日(日) 解放直後の在日朝鮮人運動が問いかけたもの
⑱ 7月28日(日) 目取真俊『沖縄「戦後」ゼロ年』をめぐって
⑲ 7月29日(月) 労働現場でどう闘うか
⑳ 7月29日(月) (戦争民主主義)と継続する植民地主義
㉑ 7月29日(月) 『朝鮮人になる』(石井政和作品)上映
㉒ 7月30日(火) 高校無償化問題のいま
㉓ 8月21日(水) 近代日本の朝鮮侵略―明治維新・日清戦争
㉔ 8月24日(土) 参戦国家化の中の天皇代替わり報道を問う
㉕ 8月28日(水) フェデリコ・デ・ロベルト作「ロザリオ」
㉖ 8月31日(土) 『チリの闘い』(第一部)
㉗ 9月7日(土) 『未知への飛行 フェイル・セイフ』
㉘ 9月11日(水) 労働者階級は厳然と存在する
㉙ 9月14日(土) 沖縄戦の記憶と辺野古反基地闘争
㉚ 9月18日(水) 近代日本の朝鮮侵略―明治維新・日清戦争
㉛ 9月21日(土) 第七部 連環の章(第一～第四)
㉜ 9月25日(水) ルイーザ・ピランデッロ作「真実」「免許証」
㉝ 9月28日(土) ニカラグアを知ろう

※⑰～⑳は夏季セミナー

◎2019年度前期募集要項
●定員 本科生40名(5月1日(水)メーデーより募集)
●全講座27回(各週1～2回程度) ※夏季セミナー6講座を除く
●本科生は、すべての講座を受講できます。その他、交流を深めつつ数講座を集中して学ぶ夏季合宿(前期)や、懇親会などの企画があります。

◎聴講生20名 シリーズを問わず、自由に講座が選べる8枚綴りの聴講チケットがあります。
●費用
◎本科生 入学金…1万円(次期以降は不要)
受講料…前期:25,000円、後期:25,000円
●前期5月、後期11月の開講時までにそれぞれ納入してください。
◎聴講生 聴講料 回数券…10,000円
●聴講料納入と引き換えに8枚綴りの聴講チケットをお渡します。
●1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
●2019年度前期の聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
◎一般 受講料…1,500円(各講座1回につき)
●本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただけます。
●申込方法
●注意事項
●HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
●講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。

◎HOWS付属ゼミナール
HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。
①HOWS文学ゼミ(戦後文学ゼミを改称)
チューター＝山口直孝、松岡慶一
2000年から2016年まで主に戦後の文学・芸術運動を検証する作業を続けてきましたが、これを第Ⅰ期として、2018年からは第Ⅱ期、名称もHOWS文学ゼミで再出発する所存です。第Ⅰ期の作業を継承するのみならず、いかにして現在の荒廃した支配的文化状況を変革して、文学・芸術運動を再生していくかが課題です。
今期は、以下の報告会を予定しています。
●目取真俊の文学から沖縄を探る 報告＝斉藤光太郎
●芸術運動の精神―湯地朝雄の批評 報告＝山口直孝
●近代天皇制と中野重治―「村の家」と「五勺の酒」 報告＝渥美博
●有島武郎―その文学の山脈 報告＝伊藤龍哉